未来へつなげるシルク

「岡谷蚕糸博物館紀要」第19号発刊

開館60周年の記念誌に

開館60周年記念誌に位置付けて発刊した岡谷蚕糸博物館紀要第19号

岡谷市の岡谷蚕糸博物館は、日本の近代化を支えた岡谷の蚕糸業に関する証言、研究成果を記録する「岡谷蚕糸博物館紀要」第19号を発刊した。昨年に迎えた開館60周年・リニューアルオープン10周年の記念誌として位置付ける冊子。研究者、シルク関連施設や団体関係者らを含む59人が執筆した。先人の足跡を再認識し、蚕糸絹業に関わる人たちの思いを後世に伝えていく。

（小山眞由美）

培った技術や産業に携わった先人の姿から、新たな絹産業と文化を創造する糧にしようと1996年度に創刊。一時休刊を経て20年度に復活し、毎年発行している。

A4判180ページ。創刊号から続く聞き取り調査の記録として、今回は同館併設の宮坂製糸所で蚕糸業とともに歩んできた宮坂照彦会長の証言を収録。かつて製糸業を営み、工女の食のために自家製みそを造ったことから醸造業に転換した松亀味噌（同市湖畔）の話も収めた。

開館60周年・リニューアルオープン10周年記念事業については、多くの写真を交えて掲載。日本絹文化フォーラム、記念式典、シルク・サミットに加え、ブライダルファッションデザイナー桂由美さんのドレスを集めたファッションショーを紹介している。

同館の髙林千幸館長(74)は「当時働いていた人の思いや生の声を記録として残していく役割がある。この冊子が後世の人たちの未来へつなげる架け橋になれば」と話す。

500部製作。税込み1800円。同館と笠原書店本店（同市塚間町）で販売。問い合わせは同館（電話0266・23・3489）へ。